

健康増進支援施設の整備 と なごや健康カレッジ

市民の自主的な健康づくりへの支援

名古屋市

名古屋市のあゆみ

明治22年(1889)10月1日

市制施行で、名古屋市は人口約15万7,000人、面積約13.34km²でスタート。

昭和12年(1937)

名古屋汎太平洋平和博覧会を開催。日中戦争がぼっ発。太平洋戦争により当時の市域の約4分の1を焼失。

昭和20年(1945)

戦後、いち早く復興都市計画事業に着手。100m道路の建設、平和公園への墓地移転などの大事業を行い、今日の基盤が確立。

昭和34年(1959)

伊勢湾台風の襲来を受け、死者1,800人余、被災世帯13万人に及ぶ被害を受けた。この大災害は、その後の街づくり、『無災害都市』への示唆を与えた。

現在

市域326.45km²、人口約220万人の規模となった。
(H18.4.1：2,212,029人)

写真：名古屋市役所本庁舎



市のマーク・木・花

市のマーク(き章)



尾張徳川家で合印として使用されていた「丸に八の字」印といわれてる。

以来このマークは、名古屋市が将来に向かって限りなく発展する象徴として、市旗を始め市バス、地下鉄の車両などにも図案化して使用され、幅広く市民に親しまれている。



市の木 クスノキ



市の花 ユリ

姉妹・友好都市



ロサンゼルス市、メキシコ市、南京市、シドニー市およびトリノ市と姉妹・友好都市提携を結んでる。

これは、姉妹友好都市と文化・教育・スポーツ・経済など幅広い交流を進める中で、人種と国境を超えた友愛精神を育て、国際感覚豊かな市民性を育むことにより、明日の名古屋を創造するためにおこなわれている。

名古屋市の観光-1



名古屋城天守閣



金鯨(龍)

大坂城、熊本城と並び日本三名城の一つ。天守に取り付けられた金の鯨(金鯨・きんこ)は、城だけでなく名古屋の象徴にもなっている。昭和20年5月、B-29による焼夷弾により天守を含むほとんどを消失した。

名古屋市の観光-2



名古屋港水族館



小さな魚から大きなシャチまで約450種3万点余の海の生き物が飼育展示されている。世界最大級のメインプールをはじめ、北館と南館から成る世界屈指の巨大水族館。

名古屋国際会議場 愛称:白鳥センチュリープラザ



平成元年、市制100周年記念事業「世界デザイン博覧会」のテーマ館として使用され、翌2年に国際会議場としてオープン。3,000名収容のセンチュリーホールなどがある。延床面積 72,165㎡

クオリティライフ21城北 整備事業について

クオリティライフ21城北整備事業とは



1 クオリティライフ21城北

名古屋新世紀計画2010の「福祉・安全都市の実現」に向けた先導的プロジェクトのひとつとして位置付けられ、北区の志賀公園西隣の産業技術総合研究所中部センター移転跡地(約5.2%)を保健・医療・福祉の総合的エリアとして平成22年度完成を目指し整備するもの

2 整備予定地

- (1) 場所 北区平手町(志賀公園の西側)
- (2) 面積 51,644.73㎡

3 主な整備予定施設(仮称)

- (1) 西部医療センター中央病院
- (2) **健康増進支援施設**
- (3) 重症心身障害児者施設
- (4) 交流広場

クオリティライフ21城北全体構想 基本理念

病気や障害の有無にかかわらず、市民誰もが、ここで出会い、ふれあうことで、ともに理解し尊重しあう心を育み、その心を広げていくことをめざします。

「いきいき」として暮らす市民にあふれる21世紀の生活の質の高い都市

クオリティライフ21城北

21世紀の市民のクオリティライフを支えるまち

「市民誰もが」の

「ほっ」と安心を支えます

「いきいき」とした暮らしを支援します

ともに理解し尊重しあえる心を育みます

クオリティライフ21城北全体構想 まちづくりの方向

21世紀の市民のクオリティライフを支えるため、次の5つの視点でまちづくりを進めます。

21世紀にふさわしい医療サービスが適切に受けられるまち

西部医療センター中央病院

健康づくりを支援するまち

健康増進支援施設

障害者をはじめ、誰もが生きがいをもって過ごせるまち

重症心身障害児者施設

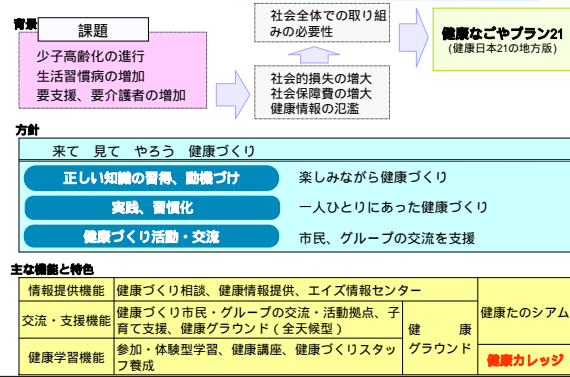
子どもを生み、育てやすい環境づくりをするまち

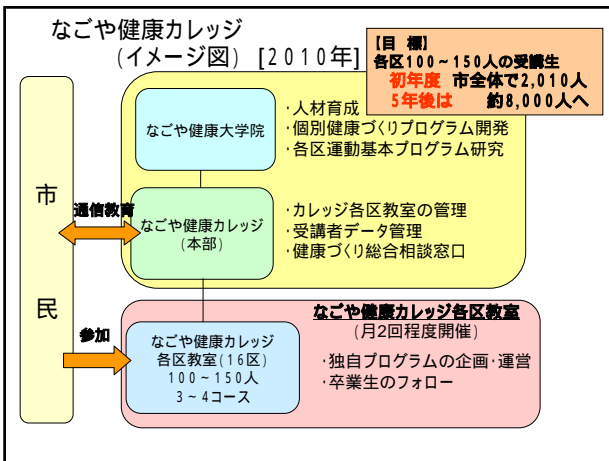
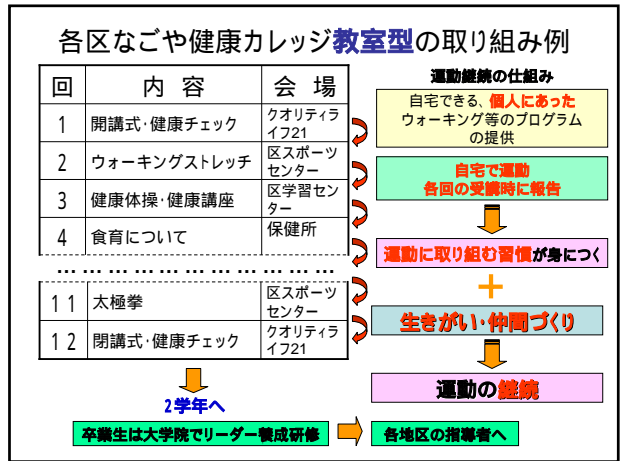
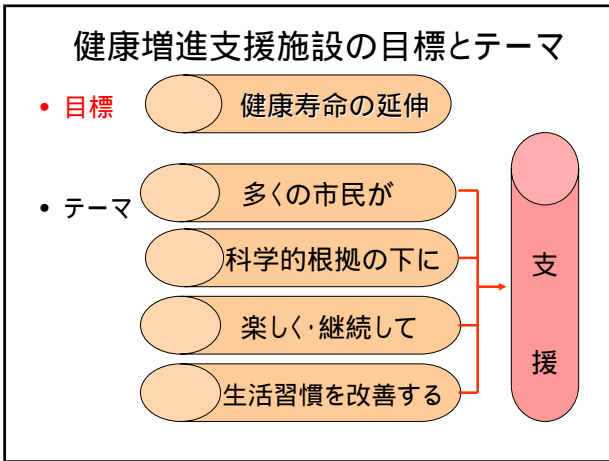
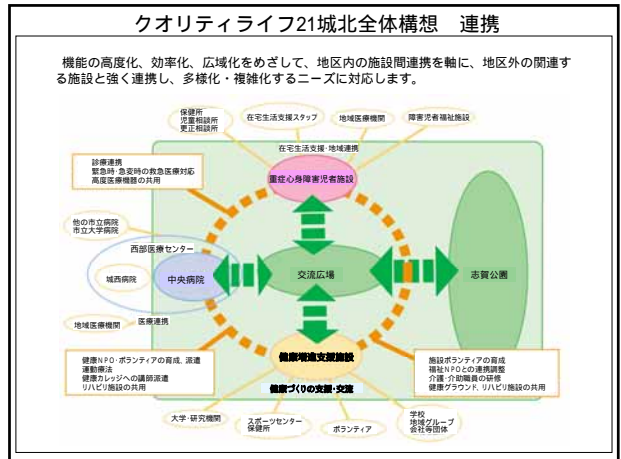
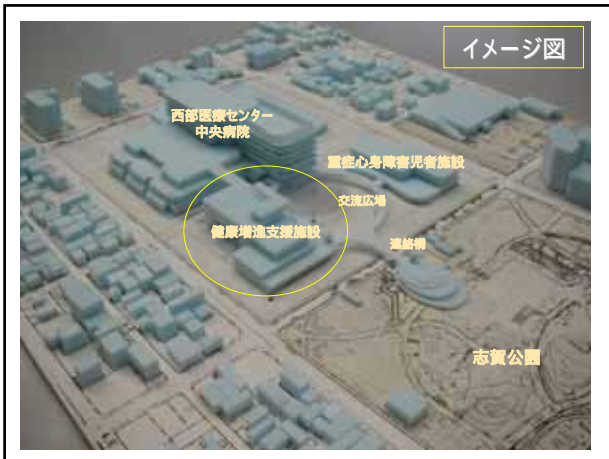
交流広場

市民との協働を支えるまち

クオリティライフ21城北全体構想 分野別構想

「健康増進支援施設(健康たのシウム、なごや健康カレッジ)」





なごや健康カレッジの手法別取り組み

	方法・ねらい	活動場所	活動内容(例)	対象
各区 なごや健康カレッジ	教室型 運動・栄養・休養の習慣化 生きがい・仲間づくり	スポーツセンター、生産学習センター、保健所等 + 自宅	月に1~2回教室で受講、健康づくりの学習・実技、日常の運動指導の受講 ・教室の合間は、自分でウォーキングやトレーニングを行い、教室受講時に成果提出、指導を受ける。	40歳以上
	地域密着型 運動の習慣化	コミセン・どんぐり広場・公園等 + 自宅	月に数回、地域の施設等で運動などの指導を受ける ・普段は、自分でウォーキングやトレーニングを行い、必要時に指導を受ける。	60歳以上
	通信教育型+教室型 運動・栄養・休養の習慣化	自宅 + スポーツセンター、生産学習センター、保健所等	インターネットや郵便で運動など指導を受ける ・普段は、自分でウォーキングやトレーニングを行い成果を提出 ・都合のつく時に面接により指導を受ける。	40~60歳 健診の要指導・要観察者
健康増進支援施設 (本部)	通信教育型 運動・栄養・休養の習慣化	自宅	個人にあった運動を、テキストを参考に自分でウォーキングやトレーニングを行い、インターネットや郵便で成果を提出、その後運動等の指導を受ける。	全年齢 膝痛、腰痛の緩和を希望する人
イベント型	親子の運動教室等 低年齢の頃から正しい生活習慣を身につける	スポーツセンター、生産学習センター、保健所等	生活習慣病の低年齢化を防止するための健康づくり等	幼児・青少年

なごや健康カレッジの連携大学

- ◆平成16年度
 - 試行の調査事業(2区)
 - 東区(名古屋大学)・天白区(東海学園大学)
- ◆平成17年度
 - 試行(3区)
 - 東区(名古屋大学)・瑞穂区(名古屋市立大学)・天白区(東海学園大学)
- ◆平成18年度
 - 試行(4区)
 - 東区(名古屋大学)・北区(中京大学)・瑞穂区(名古屋市立大学)・天白区(東海学園大学)
- ◆平成19年度以降に予定の連携大学
 - 愛知学院大学、名古屋学院大学

なごや健康カレッジの活動場所

- ◆本部(健康増進支援施設内)
 - プログラム作成、個人データ管理、指導者養成
- ◆区の活動
 - 既存の資源(施設)を活用
 - 各区の市スポーツセンター(16区全てに設置)
 - 生涯学習センター
 - 各区保健所(16区全てに設置)
 - 連携大学
 - 町内単位のコミュニティーセンター、公園、広場
 - 民間フィットネスクラブなど

東区「転ばん大幸教室」



名古屋大学(大幸医療センター)

天白区「自然の中で健康づくり教室」



相生山緑地

天白スポーツセンター 軽運動室

天白区「健康学ノススメ」



東海学園大学
「コンディショニング・ストレッチ」



天白スポーツセンター 軽運動室
「太極拳」